

令和元年度病害虫発生予察情報 特殊報 第1号

令和元年 8 月 23 日
広島県西部農業技術指導所

1 病害虫名 トルコギキョウ白さび病 (仮称)

病原菌：*Pustula centaurii*

2 発生物 トルコギキョウ (雨よけ栽培)

3 発生経過

- (1) 令和元年7月、広島県内のトルコギキョウ栽培施設において、葉と茎に白色～クリーム色のさび様の病斑が生じている株が確認された。
- (2) 広島県立総合技術研究所農業技術センターにおいて診断したところ、*Pustula centaurii* を病原とするトルコギキョウ白さび病と同定された。
- (3) 本病は、平成29年に山口県で初めて確認されている。本県における本病の被害は初確認である。

4 本病の特徴

(1) 病徴

トルコギキョウの葉の両面や茎に白色～クリーム色の盛り上がった小病斑が発生する。病斑は綫紋状に形成されることがある(図2)。やがて病斑の表皮が破れ、白色粉状の胞子のうが露出して飛散する。病斑周辺の組織内には卵胞子が認められる。(図1, 2)

(2) 病原菌の特徴

胞子のうは、無色透明、ほぼ直方体で角は丸く、赤道部は肥厚し、長さは約18 μ mである(図3)。卵胞子は、ほぼ球形(直径50～60 μ m)で表面に網目と突起がある。未熟な卵胞子は薄い黄褐色～琥珀色で、成熟した卵胞子は暗褐色である(図4)。

(3) 宿主

本病原菌の宿主は、リンドウ科植物(海外でトルコギキョウ、ベニバナセンブリ等)が確認されている。

5 防除対策

- (1) 発生を確認した場合は、罹病茎葉を速やかに除去する。
- (2) 被害残渣は、圃場外に持ち出して焼却するか土中深くに埋めるなどして適切に処理する。
- (3) 本病に登録されている薬剤はない。



図1 茎の病徴



図2 葉の病徴



図3 胞子のう

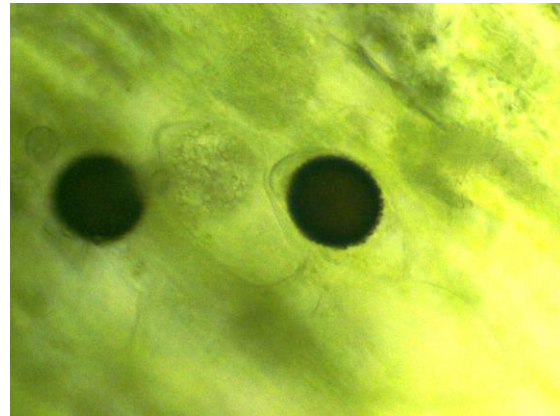


図4 成熟卵胞子

○病害虫発生情報に関するお問い合わせ先

西部農業技術指導所・西部病害虫防除所 (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-420-9662)

広島県立総合技術研究所

農業技術センター生産環境研究部 (〒739-0151 東広島市八本松町原 6869 電話 082-429-0521)

農林水産局農業技術課

(〒730-8511 広島市中区基町 10-52 電話 082-513-3559)

○病害虫発生予察情報は、広島県ホームページで閲覧できます。

<https://www.pref.hiroshima.lg.jp/soshiki/198/syokubou-t.html>